

Hara Museum of Contemporary Art

The Nature Rules 自然国家 Dreaming of Earth Project

発案・構成 崔在銀

2019年4月13日 [土] - 7月28日 [日] 原美術館



崔在銀
hatred melts like snow
2019
(参考画像)
©Kim Taedong

【展覧会概要】

この度、原美術館では、崔在銀(チェ ジェウン)による発案・構成の「The Nature Rules 自然国家: Dreaming of Earth Project」展を開催いたします。

本展は、Korean War 休戦後、65年余りの歳月を経て非武装地帯(DMZ / Demilitarized Zone)に生まれた豊かな生態系を守り、生きとし生けるもの全ての共生を願って崔が2014年に立ち上げた「Dreaming of Earth Project (大地の夢プロジェクト)」の構想を可視化する展覧会です。本展の題名となっている「自然国家」とは、人間ではなく自然が治める国、崔の理想とする国のことです。

かつて「アショカの森」展(2010年、原美術館)を開催するなど、アートの視点から生命を見つめてきた崔の集大成とも言えるDMZを舞台にしたプロジェクトの実現に向け、彼女に共感する多くのアーティストや建築家の英知と共に、まずは原美術館から歩み出します。

Dreaming of Earth Project とは

停戦ラインの北緯38度線から南北2kmずつの帯状のエリアは、「非武装地帯(DMZ)」と呼ばれる緩衝地帯。1953年の停戦後、軍事活動は許されなかったものの、300万個とも言われる数の地雷が敷設され、南北間の緊迫した状況が続いてきました。以来65年もの長きに亘って人が立ち入ることのなかったそのDMZは、今では106種もの絶滅危惧種を含め5,057種の生物を育む豊かな大地となっています。

皮肉にも人間の対立によって生まれたこの豊かな生態系を、いかにして後世に手渡してゆくか。崔は、DMZに生息する命と人と同じ大地の生物として共に生きる方法を探るため、2014年に「Dreaming of Earth Project」を立ち上げました。現在では、本展にも出品する数多くのアーティストや建築家、思想家が崔の元に集まり、具体的方法を提案しています。渡り鳥が羽を休める空の庭園や、人を地雷から守り、自然を人間から守ることのできる散策路、そして絶滅が危惧される植物の種を保存するシードバンクなど、実現には多くの困難が予想されますが、一步一步前進しています。

Hara Museum of Contemporary Art

The Nature Rules 自然国家 ～対立の地から生きとし生けるものの大地へ

本展の題名となっている「自然国家」とは、人間ではなく自然が治める国、崔の理想とする国のことです。アートとして形あるものを DMZ の生態系に作るということは、たとえ僅かであっても人間が自然の営みに介入することを意味しますが、かといって何もしなければ、社会情勢次第で豊かな生態系が減びることも危惧されます。人が自然と関わりつつ、対立のエリアを生きとし生けるものの大地にするために崔が出した結論は、「自然国家」の“法律”の“創作”です。

本展では、出品作家に加え、崔が信頼する人々が自然について思索し、共生のための法律を作ります。それらは法律でありながら、鳥のさえざりや風にそよぐ草の音のように自然の一部となっていくことでしょう。

法律創作協力者：アン ソヨン、イ ウンジュ、ギムホンソック、チェ ジェチョン、チョウ ミンスク、中村桂子、李禹煥 他

hatred melts like snow

——韓半島を二分する 248km の DMZ には、幾重もの鉄条網が約 70 年にわたり存在してきた。鉄条網は、かつては同じ民族だった者たちが、異なる理念の下に袂を分かち、刃を向け合うその憎しみを象徴している。

私は、境界線から撤去された鉄条網を熱で溶かすことにした。

そして、それを飛び石にし、誰もが上を踏んで歩くことができるようにした。

鉄条網は何にでもその姿を変えることができる。心臓、告白、台座、避難所など…。

愛を前に、憎しみは雪のように溶けるだろう

——崔在銀

崔在銀について

1953 年、ソウル生まれ。76 年より東京に在住し、草月流の華道を学ぶ。84 年から 3 年間、草月流三代目家元、勅使河原宏のアシスタントとなる。95 年には日本代表の 1 人として第 46 回ヴェネチア ビエンナーレに出品するなど、国際展への参加多数。2001 年には映画『On The Way』を発表し、映画監督としても活躍。2010 年、原美術館にて日本における初個展「アショカの森」を開催。

1976 年の来日を機に、日本の伝統芸術である生け花に魅せられた崔は、その成り立ちから革新性のある草月流と出会い、後に三代目家元であり映画監督でもあった勅使河原宏のアシスタントとして、生け花の表層だけでなく、その空間概念や宇宙観をも学び、自身の豊かな感性と共鳴させながら、作品をインスタレーションというかたちに昇華させていった。

1986 年には、「ワールド アンダーグラウンド プロジェクト」と称し、韓国の慶州や福井県の今立、欧米やアフリカなど、さまざまな土地でプロジェクトを開始。原美術館が所蔵する『モーツァルトへのオマージュ』（1988 年）もそのうちの 1 点である。和紙を地中に埋め、時を経て掘り出すこの作品は、作品の完成を作家の手ではなく、各地の地中の環境に委ねるといったものだった。やがて彼女はマイクロの世界をモチーフとした作品も発表するようになるなど、崔の表現の形態は変化しても生命への深い関心は全作品に貫かれている。

Hara Museum of Contemporary Art

【開催要項】

展覧会名	「The Nature Rules 自然国家 : Dreaming of Earth Project」 (欧文表記 <i>The Nature Rules : Dreaming of Earth Project</i>)
会期	2019年4月13日[土]-7月28日[日] 開館日数 93日
助成	Korea Foundation
協力	DMZ Ecology Research Institute The War Memorial of Korea DMZ Museum 白岳窯
発案・構成	崔在銀 (チェ ジェウン)
出品作家	坂 茂、チョウ ミンスク、崔在銀、チョン ジェスン、川俣正、キム テドン、イ ブル、 李禹煥、スン ヒョサン、スタジオ ムンバイ、スタジオ アザー スペーシズ: オラファー エリアソン アンド セバスチャン ベーマン
主催・会場	原美術館 [東京・品川] 東京都品川区北品川 4-7-25 〒140-0001 Tel 03-3445-0651 E-mail info@haramuseum.or.jp ウェブサイト https://www.haramuseum.or.jp
休館日	月曜日 (4月29日、5月6日、7月15日を除く)、5月7日、7月16日
開館時間	11:00 am - 5:00 pm (5月1日を除く水曜は 8:00 pm まで/入館は閉館時刻の30分前まで)
入館料	一般 1,100 円、大高生 700 円、小中生 500 円、70 歳以上 550 円/原美術館メンバーは無料、 学期中の土曜日は小中高生の入館無料/20 名以上の団体は 1 人 100 円引
交通案内	JR「品川駅」高輪口より徒歩 15 分/タクシー5 分/都営バス「反 96」系統「御殿山」停留 所下車、徒歩 3 分/京急線「北品川駅」より徒歩 8 分

*日曜には当館学芸員によるギャラリーガイドを実施 (2:30 pm より 30 分程度)

*会期中のイベントは決まり次第、原美術館ウェブサイトに掲載

H A R A
MUSEUM

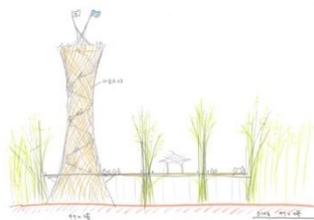
KOREA **KF**
FOUNDATION
한국국제교류재단

Hara Museum of Contemporary Art

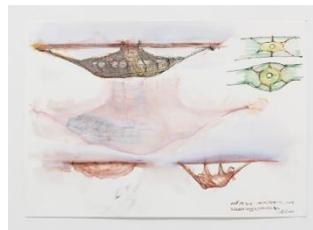
【広報用図版】



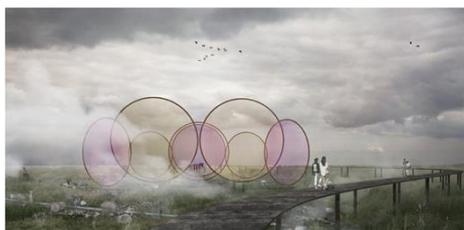
《図版 1》



《図版 2》



《図版 3》



《図版 4》



《図版 5》



《図版 6》



《図版 7》



《図版 8》



《図版 9》



《図版 10》



《図版 11》

* 掲載時のトリミングや文字載せはご遠慮ください。

* 下記のクレジットを必ずご記載ください。

* 全て 参考画像 Courtesy of the artist をご記載ください。

《図版 1》 崔在銀 *hatred melts like snow*, 2019 ©Kim Taedong

《図版 2》 Shigeru Ban Architects, *Bamboo Passage and Tower*, 2015, pencil on paper

《図版 3》 Lee Bul, *Study for DMZ Jung-ja Project 1*, 2017, pencil, watercolor ink, acrylic paint on paper

《図版 4》 Studio Other Spaces: Olafur Eliasson and Sebastian Behmann, *Condensation pavilion*

《図版 5》 Seung H-Sang, *Birds' Monastery*

《図版 6》 李禹煥 「透明茶房イメージドローイング」 和紙にインク、2019

《図版 7》 Studio Mumbai, *Tazia*

《図版 8》 Minsuk Cho, *DMZ Vault of Life and Knowledge*, 2016

《図版 9》 川俣正 *Nest on the Cliff*

《図版 10》 崔在銀 *Recurring Tree*

《図版 11》 Kim Taedong, *PLANETES (IIAANHTEΣ)-030*, 2019, archival pigment print

取材・図版提供などのお問い合わせ先：原美術館広報 野田、市川 担当学芸員 坪内

Tel: 03-3280-0679 Fax: 03-5791-7630 E-mail: hmpr@haramuseum.or.jp

(いずれも広報直通/掲載時には代表番号・アドレスをお用ください)

Twitter: @haramuseum instagram: @hara_museum